

●事例紹介●

地域と創る「にいま子どもフェスタ」

片山 啓子

(新見公立短期大学幼児教育学科長)

「にいま子どもフェスタ」の概要

この取組は、新見市の公立ホールにおいて開催している本学幼児教育学科の表現発表会である。幼児・児童を対象にした劇・ミュージカル・歌・創作ダンスなどを舞台上で上演し、平成一七年度(平成一八年二月開催)で第一五回公演を迎える取組である。地域では広く認知され、子どもたちとその保護者・家族あるいは教育・保育関係者のもとより、一般の方々や遠隔地からの卒業生や在学生の家族の来場も多く、午前・午後二回公演で一四〇〇名の観客動員を誇る催しとなっている。

地域に根ざした公立短期大学

岡山県北西部の山間地に位置する新見公立短期大学は、昭和五五年、新見市及び隣接する阿哲郡四町による全国初の広域事務組合立の新見女子短期大学として、人口三万人足らずの当地域からの強い要望により創設された公立短期大学である。看護学科(定員六〇名)と幼児教育学科(同五〇名)の二学科で発足したが、地域福祉学科(同五〇名)・地域看護学専攻科(同一五名)の増設や男女共学化に伴う校名変更を経て現在に至っている。平成一七年三月の市町村合併により新見市立に移管されたが、創設時の趣旨や経緯をとどめる意味もあり、敢えて校名変更は行わな

かった。

本学の三〇〇名を超える卒業生の多くは、医療・教育保育・福祉のいずれも対人援助の専門職として、主に西日本各地で活躍し高い評価を得ている。学生は、地域の方々の厚い人情と教職員の熱い支援を得て、それぞれの専門職を目指して熱心かつ真摯に勉学に励んでおり、就職率はこの数年ほぼ一〇〇%を維持している。岡山市・倉敷市などの都市部からは遠隔地のため学生が集まりにくい環境条件であるにもかかわらず、入学者は北海道から沖縄県まで年々全国に拡大しており、幼児教育学科では定員の四〜五倍の入学志願者を集めている。

「にいま子どもフェスタ」の特色

舞台発表を通して高い教育効果が得られるため、幼児教育・保育系の短期大学では同種の取組が各地で見られるが、「にいま子どもフェスタ」の特色は、以下の三点に大別される。

A 公立ホールとの共同開催

「にいま子どもフェスタ」は新見市の公立ホール「まなび広場にいま」が、地域文化への寄与及び青少年の健全育成

を目的とする自主企画事業として主催し会場を提供、本学幼児教育学科が作品構成や舞台演出を担当する共催の形で共同開催しており、まさに行政と一体となって、地域と創る舞台公演である。このような発表会では開催する学校が主催者となるのが普通であり、ホール使用についても貸館状況や予算の都合により本番の前日か前々日からの会場借用が一般的である。しかし、本取組では主催者であるホール側の全面的な支援により本番前一週間は貸切り状態でホールを使用でき、入念な舞台稽古やリハーサル、あるいは舞台仕込やスタッフとの打合せ時間が十分に確保できる。これにより出演者・スタッフ共に舞台における表現技術や操作技術が磨かれ、それが本学発表会に対する来場者からの高い評価の大きな要因ともなっている。なお、この一週間のリハーサルについては時間割に記載し本学教授会の承認を経た上で実施している。

リハーサルを含めて一週間ものホール使用で、しかも厳寒期に舞台公演活動を実施する場合、主催者側はかなりの経費負担となる。しかし、本取組は共同開催のため両者の経費負担は半額程度で済む。またホール側は会場運営面を、本学側は舞台運営面を主に担当すればよいことや広報活動も担当領域を分担できることなど多くの利点が挙げられる。

B 作品のオリジナリティと表現技術への高い評価

「にいみこどもフェスタ」は子ども向けの発表であることは言うまでもないが、決して「子どもだまし」になることなく、よく練られた舞台構成と磨かれた表現技術での上演を目指して取り組んでいる。

作品制作にあたっては、原作物の劇は脚本作りから始めること、劇以外の作品も構成・演出はもとより使用する歌や音楽の作詞・作曲、ダンスの創作・振付、舞台装置の考案・製作など全てオリジナルであることを学生に課している。以下に挙げたのは、お子さんと来場された保護者から公演終了後に学校宛に葉書で届いた感想の一部である。

「とても楽しくて感動しました。最高でした！ はじめは三歳の娘が公演をちゃんと座って見ることができたのか不安でした。(中略)：娘も釘づけ状態になりました。素晴らしかったです!! どのステージもいたるところに創意工夫がされており、あつという間の二時間でした。午前の公演を見てあまりにも良かったので、午後にはビデオを持参して撮影させていただきました。家で繰り返し見えています。(後略)：」

また、メディア機器を使った作品制作と演出も大きな特色である。IT社会の中で、保育学生にとってメディア機器の活用は専門技術の一つとして重要な要素となっている。

で情報通信ネットワークにより、平成一六年二月に開催した第一三回公演のライブ配信を試みた。この広域情報通信ネットワークは新見市及び旧四町をカバーしており、アプリケーションの一つとして動画配信サーバを整備しているが、実際には著作権・肖像権等の制約により映像配信できる内容が限られているのが現状である。しかし「にいみこどもフェスタ」は脚本・音楽等すべてがオリジナルで構成されており、音楽著作権や肖像権の承認もクリアしやすいため配信ソースとしては最適なアプリケーションであるとして実験的に試みたものである。

保育学生に対する高い教育効果

本取組においては、創造性や表現技術などの「表現力」の向上や達成感・充実感の獲得は言うまでもなく、それ以外の保育者として必要な資質の育成にも高い教育効果を上げている。以下に挙げたのは、劇に参加した一年次生の感想を抜粋・要約したものである。

「①この発表会で私たちは様々な表現力を得た。しかし得たものは表現力だけではなく、たくさん大切なものを学ぶことができた。まずは一人一人の責任感である。自分も含めた出演者や周りのスタッフの姿を見て、一人でも欠け

る。本取組においても学生がパソコンで効果音楽・伴奏音楽の作曲、ポスター・チラシ原画(資料1)の作成、アニメーション動画の作成、スライドによる静止画や歌詞の作成などを行い、作品に応じた舞台の演出効果として用い、その高い舞台表現技術が好評を得ている。

C 情報通信ネットワークによるライブ配信

地域の一人でも多くの人に舞台鑑賞の機会を提供するために、本学の設置母体であった阿新広域事務組合との協働

資料1 第14回公演ポスター・チラシ



たらこの劇は成立しないと思いきらされ、それぞれの責任と信頼感も感じることができた。②集中したり協力することによって、あんなに感動的な舞台がで上がるのだということに感動した。特にスタッフはそれぞれの役割の中で連絡・報告・相談が不可欠だった。これは保育現場での協力体制と殆ど同じだと思う。③寒い時期だったので風邪を引かないよう自分の体調管理に気を配った。また、遅れてみんなに迷惑をかけないよう開館前には着いておくように時間厳守を心掛けた。④二年生の先輩たちを見て、自分の足りない部分や未熟な面に気付かされた。他人の指示を待



第14回公演・創作ダンス「元気!元気!」より



第1回移動公演・エンディング場面より

つのではなく、自ら考え率先して行動するなど今後の私の課題も見つけられた。⑤練習や準備の大切さをこれほど感じたことは今までなかったと思う。リハーサルが進むにつれて、いいものを作ろうという気持ちが強くなっていくのを感じた」

平成一六年度特色GPに採択されて

平成一六年度特色GP採択に伴う主な新規事業は、以下の三点である。

A インターネットによる全国へのライブ配信

平成一七年二月二六日に開催された第一四回公演では、全国に向けてインターネットによるライブ配信を実現させた。現在も本学ホームページより本公演並びに過年度作品を配信中である。

B 第一回移動公演の開催

地域の一人でも多くの子どもたちに一度でも多く直に舞台鑑賞の機会を提供することを目的に、二月の本公演当時の一年次生のみを発表により、四月一七日(日)、新見市西端の哲西町において第一回移動公演を開催した。

年度当初の慌しい時期ではあったが、学生は新二年次生としての自覚と本公演での感動を抱いたまま舞台の再構成や練習に取り組み、広島県東端の東城町の子どもたちも集めて、設備の整った大きなホールとはまた違った手作りの舞台を経験する機会をも得ることができた。

C 第一四回公演及びメイキングビデオのDVD制作

本取組を広範に紹介すると共に、保育・教育現場や保育者養成機関における表現活動の教材として役立てるために、第一四回公演の舞台を収録した「本編ビデオ」と授業での作品制作やその指導過程、公演前の練習やリハーサル風景等いわゆる「メイキングビデオ」のDVDを業者委託により制作した。

以上、行政をはじめとする地域からの積極的支援と「特色ある大学教育支援プログラム」の採択を受け、今後も幼児教育学科学生の教育向上と当地域の一人でも多くの子どもたちに、より質の高い「楽しい」舞台鑑賞の機会を提供することを目指して、「にしみこどもフェスタ」とその関連事業の一層の充実・発展を図りながら、地域により設立された公立短期大学として、これからも地域との連携・共生の道を歩み続けていきたい。